様　式　C－19、F－19－1、Z－19　(共通)

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　2 年　 6 月　 5 日現在

機関番号：１６２０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０６７０８

研究課題名（和文）東日本大震災被災地における仮設住宅後の住まいと高齢者の孤立化防止に関する研究

研究課題名（英文）Study on the prevention of social isolation of the elderly in the temporary housing units and disaster public housing of the Tohoku Earthquake stricken areas.

研究代表者
中島　美登子（NAKASHIMA, MITOKO）

香川大学・創造工学部・講師

研究者番号：３０４１３８６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：大船渡市における防災集団移転地をとりあげて，仮設住宅から防災集団移転地への移転が高齢者の交流関係や生活状況にどのような影響を与えたのかを明らかにした。仮設住宅から防災集団移転地へと至る移転プロセスにおいては用地取得や移転の計画策定、合意形成という点で大きな違いが見られた。そうした違いは移転後のコミュニティの維持・形成状況に影響し、集落としての一体性やコミュニティのまとまりを持たない防災手段移転地もみられる場合があり、高齢者の孤立化の危険が生じる。防災集団移転地においても、高齢者サポート拠点や支援員制度など仮設住宅時代の高齢者支援の社会的資源を有効に活用して、高齢者支援を行うことが必要になる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
仮設住宅から防災集団移転地へと至る移転プロセスにおいては用地取得や移転の計画策定、合意形成という点で大きな違いが見られた。そうした違いは移転後のコミュニティの維持・形成状況に影響し、集落としての一体性やコミュニティのまとまりを持たない防災手段移転地もみられる場合があり、そこでは高齢者の孤立化の危険が生じる。防災集団移転地においても、高齢者サポート拠点や支援員制度など仮設住宅時代の高齢者支援の社会的資源を有効に活用して、高齢者支援を行うことが必要になる。高齢者サポート拠点の立地場所や支援員のサービス範囲などを防災集団移転地の高齢者にも利用しやすいように柔軟に対応させていくことも求められる。

研究成果の概要（英文）：This paper, with focusing on the collective relocation site for disaster prevention in the stricken areas of the 2011 Tohoku Earthquake, attempts to clarify the influences of the relocation from temporary housing to the collective relocation site on the elderly, and aims to explore the ways for preventing social isolation of the elderly in the stricken areas.It can be concluded that, in order to prevent social isolation of the elderly in the collective relocation sites, maintaining existing local community in the relocation process from the temporary housing to the collective relocation site is necessary, and particularly in the collective relocation site which has lost its existing local community, utilization of the elderly support center originally assigned to temporary housing are required for promoting exchanging relationships of the elderly.

研究分野：都市計画・建築計画

キーワード：被災地　防災集団移転地　高齢者　孤立化防止　環境移行

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

仮設後に移り住んだ災害公営住宅においても 2013 年以降 2018 年１月末までに少なくとも 98 人の「孤立死」が確認されており，そのうち 60 歳以上が 84 人と全体の８割以上を占めている。仮設住宅以降の復興過程においても高齢者の孤立化はいっそう深刻な問題となり，その防止は喫緊の課題となっていると言える。防災集団移転地においても移転プロセスや住民意向の違い等の諸条件によって近隣関係やコミュニティの維持・形成の状況には大きな違いがあること，そしてそれらが十分に機能していない場合には，仮設住宅や災害公営住宅と同様に高齢者の孤立化の危険がともなうことが推察される。

２．研究の目的

本研究では東日本大震災の被災地の一つである岩手県大船渡市における防災集団移転地をとりあげて，仮設住宅から防災集団移転地への移転が高齢者の交流関係や生活状況にどのような影響を与えたのか，高齢者の孤立化を防ぐためにどのような支援が求められているのかを明らかにすることを通じて，防災集団移転地における高齢者の孤立化を防止するための基礎的な知見を得ることを目的とする。

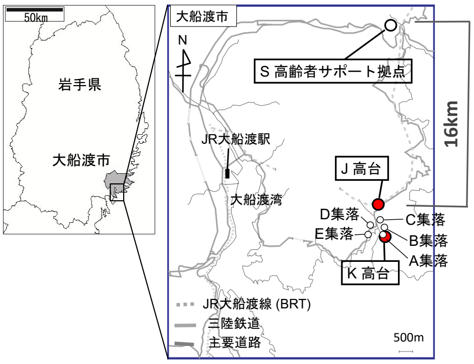

図１　J，K 高台住宅の位置

３．研究の方法

本研究ではＪ，Ｋの２つの防災集団移転地（以下，Ｊ高台，Ｋ高台）を調査対象とする（図１,表１）。「元の地区に近接しており，元のコミュニティもまとまって移転した場合」に該当し地域コミュニティの継続性が高いＫ高台と，「元の地区とは離れてしまい，出身地区が異なる住民が混在している場合」に該当し地域コミュニティの継続性が低いＪ高台を対象として取り上げて，仮設住宅から防災集団移転地への移転の際のコミュニティの継続性の違いが高齢者の交流関係にどのような影響を与えたのか，そして高齢者の孤立化を防ぐためにどのような支援が求められているのかを明らかにする。このＪ，Ｋ高台の高齢者に対してアンケート調査を行った。また、17 人（J 高台：10 人、K 高台：7 人）に対してインタビュー調査を行った。インタビュー項目は外出状況、人的交流、介護要望、高齢期における生活変化、集会所・談話室への要望等である。

表１　各高台住宅の概要

地区	Ｒ地区	
対象高台	Ｊ高台	Ｋ高台
世帯数	23戸	14戸
入居	2015年3月	2015年2月
公民館	なし	あり（高台住宅内）
自治会	なし	あり（以前の自治会を継続）
入居者の出身集落別世帯数	Ｂ(8戸)，Ｃ(7戸)，Ｄ(4戸)，Ｅ(4戸)	Ａ(14戸)
現在のコミュニティの状態	仮設住宅からの知り合いはいるが、各戸の宅地を抽選で決めたため隣は知らない人も多く、隣近所での交流はあまりできていない。	仮設住宅からの知り合いが多く、近隣の住民同士での交流も活発である。
高齢者サポート拠点の利用	一部の住民の利用あり	なし

４．研究成果

(1)．各高台住宅におけるコミュニティ活動

Ｊ高台とＫ高台はどちらも同市内のＲ地区に位置し、津波により被災した元の A,B,C,D,E 集落の住民が集団移転したものである。Ｊ高台の戸数は 23 戸、Ｋ高台は 12 戸で、どちらも震災から 4 年後の 2015 年 2 月及び 3 月に入居を開始した。しかしながら、この２つの防災集団移転地の特徴はＫ高台は全員が元の A 集落の住民であるのに対し、Ｊ高台の住民はB,C,D,Eの４集落の住民によって構成されている。K 高台はその造成地内に公民館が建設され，元のＡ集落の自治会がそのまま継承されているのに対し，Ｊ高台は公民館も建設されておらず，自治会も組織されていない。コミュニティの交流状況については，Ｋ高台では仮設住宅からの知り合いが多く，近隣の住民同士の交流も活発であるのに対し，Ｊ高台では仮設住宅からの知り合いもいるが，お互いに知らない人も多く，隣近所での交流はあまりできていない。また，Ｊ高台の高齢者の一部はＪ高台から16kmほど離れたＳ地区に位置するＳ高齢者サポート拠点をしばしば利用しているが，Ｋ高台の高齢者は全く利用していない。

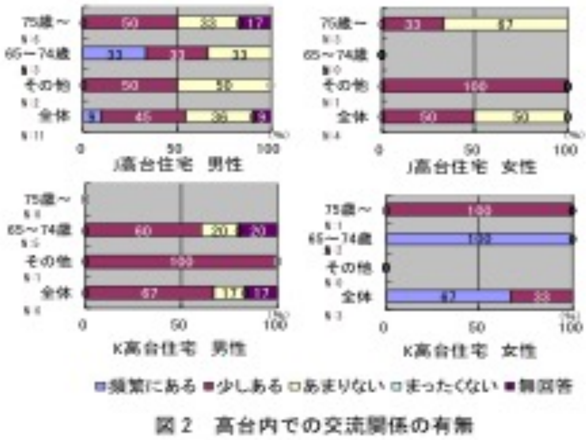

図２　高台内での交流関係の有無

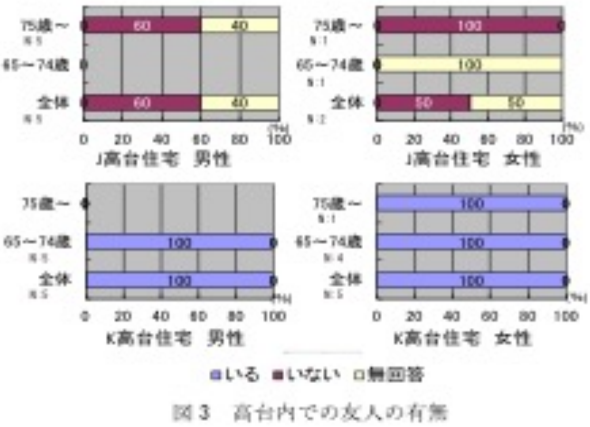

図３　高台内での友人の有無

(2)．アンケート調査からみた防災集団移転地に

おける交流関係
①高台内での交流の有無（図 2）
J 高台では男女ともに交流関係が「頻繁にある」および「少しある」の割合は半数にとどまったのに対し、K 高台ではその割合は男性で 67%、女性では 100%に達した（図 2）。また、「友人」と呼べる人の有無を尋ねたところ（図 3）、J 高台では男女ともに「いる」と回答した人がいなかったのに対し、K 高台では反対に男女問わずすべてが「いる」と回答した。

次に交流関係の具体的な内容を「挨拶・用事」と「近所での立ち話・行き来」に分けて頻度を尋ねたところ(図 4)、「挨拶・用事」の場合、男性においては J,K 高台ともに 6,7 割の回答者が「よくする」と回答しているが、女性においてはK高台の回答者すべてが「よくする」と回答している。また、「近所での立ち話・行き来」については、男女ともに J 高台において「ほとんどしない」の割合が 25%程度みられ、近隣の交流関係はやはりK高台において活発であることがわかる（図 5）。K 高台では子供世代と同居する高齢者が 8 割以上を占めるのに対し、J 高台は単身および夫婦のみの高齢者世帯が約半数を占める。家族の支援があまり期待できないJ高台において友人や近隣の交流関係が乏しいことは、孤立化の危険をさらに高めるおそれがあると言えよう。

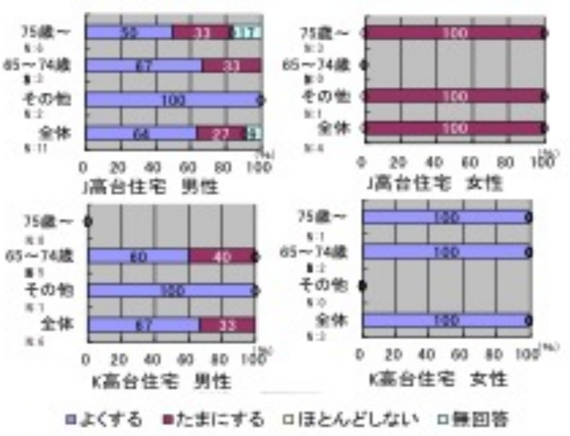

図 4 高台内での交流の頻度（挨拶・用事）

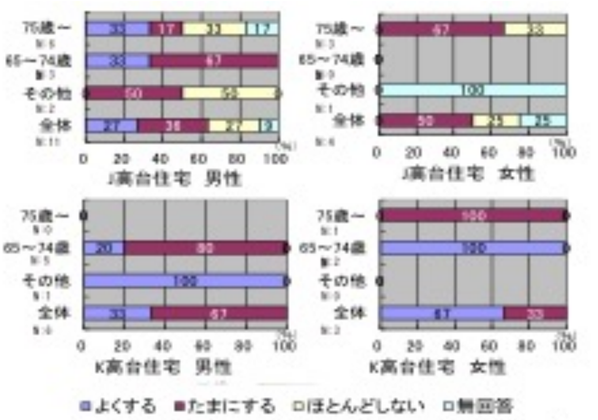

図 5 高台内での交流の頻度（近所での立ち話・行き来）

②コミュニティ活動への参加状況
次にJ,K高台の住民のコミュニティ活動への参加状況を知るために、まず「現在、住民同士で集まっている場所はあるか」と尋ねたところ、K 高台では高齢者も含めて 8 割近くの住民が集まる場を有しているのに対し、J 高台は高齢者の 3,4 割ほどしか集まる場を有していない（図 6）。さらにこれらの「集まる場」がどこなのかを具体的に尋ねたところ（図 7）、K 高台では大半の人が「地区公民館」をあげていた。前述のように、K 高台には公民館が設置されており、ここが住民の集う場となっていることがわかる。

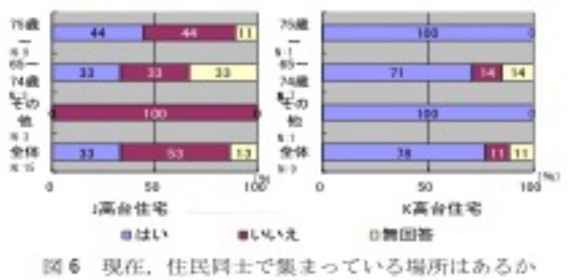

図 6 現在，住民同士で集まっている場所はあるか

また、K 高台には公民館とは別に集会所も設置されており（図 7 では K 高台の「その他」に該当する）、一部の後期高齢者は毎日のようにこの集会所に通っておしゃべりなどをしている。一方、J 高台には公民館は設置されていないが、図 7 を見ると J 高台の高齢者のうち 20～30%の人が「地区公民館」を集まる場としてあげている。これは J 高台から坂道を下り徒歩 30～40 分（帰りは登りになるので徒歩 1 時間ほどかかる）ほどの所にある M 地区の公民館を指している。J 高台は行政区としては M 地区に含まれるため、M 地区の公民館は年に数回ほど敬老会などのイベントを行う際に J 高台の高齢者にも参加を呼びかけており、これに J 高台の高齢者が何人か参加している。しかし J 高台の住民は M 地区の自治会には加入しておらず、公民館も日常的に J 高台の高齢者が集まる場となっているわけではない。また、「現在、自治会活動に参加しているか」と尋ねたところ（図 8）、K 高台は高齢者も含めてほぼ半数の人々が何らかの活動に参加していることがわかる。具体的には、狭義の自治会活動のほか、A 集落の郷土芸能である「権現舞」と呼ばれる巨大な獅子舞の練習や祭りの準備などに多くの住民が参加しており、K 高台の集会所には　これらの祭りで用いる太鼓やその他の道具も保管されている。一方、図 7 を見ると J 高台でも 3 割前後の住民が自治会活動に参加していることがわかるが、これは前述の近隣 M 地区で行われるイベントにときおり J 高台の住民が参加するものであり、J 高台で行われる地域活動ではない。このように、コミュニティ活動への参加状況をみても、さまざまな地域活動に活発に参加している K 高台の住民と、そのような地域活動が行われておらず、近隣

の地区で行われている地域活動に部分的に参加するだけのＪ高台の住民という対比がみられる。

③高台の生活への満足度と交流関係への不満

次に現在住んでいる高台での生活が暮らしやすいか、そうでなければどのような点に不満を感じているのかを尋ねてみた。Ｋ高台では高齢者も含めてすべての人が「暮らしやすい」「まあまあ暮らしやすい」と答えたのに対し、Ｊ高台におけるその割合は男性で 63%、女性では 25%にとどまる（図 9）。高台での生活への満足度はＪ高台においてかなり低いと言わざるをえない。そこで、どのような点で「暮らしにくい」と感じるのか、「暮らしにくい」と回答した人々に具体的に上げてもらったところ、表１に示されるように、ほとんどが友人の有無や人間関係に関するものであった。そこでさらに日常的な交流関係に絞って、どのような点に不満を感じるかを尋ねたところ、表２に示されるように移転により友人と離れてしまったことや、集会所や公民館などの交流スペースがないこと、日常的に頼れる人がいないことなどが特に高齢者を中心に多く挙げられた。このような交流関係に関する不安や不満は、公民館や集会所がなく、地域活動も乏しく、日常的な交流関係も希薄なＪ高台の高齢者にとって深刻な問題となっていると思われる。

④高齢者サポート拠点および支援員の利用

前述のように、Ｊ高台の高齢者の一部はＪ高台から 16km ほど離れたＳ高齢者サポート拠点をしばしば利用しているが、これは防集事業でＪ高台に移転する以前のＲ仮設住宅時代のつながりによるものである。Ｓサポート拠点のスタッフがＲ仮設住宅を定期的に訪問して、孤立しがちな高齢者や身体の不自由な高齢者、認知症の高齢者等を戸別訪問して声かけを行ったり、Ｓサポート拠点で行われるイベントへの参加を呼びかけるなど、積極的に働きかけを行った結果、Ｊ高台に移転した後も何人かの高齢者は自分で車を運転したり、あるいは家族はによる送迎でＳサポート拠点まで通っている事例が確認された。Ｋ高台の高齢者も、Ｒ仮設住宅に住んでいた時はＪ高台の高齢者と同様にＳサポート拠点のスタッフによる支援やサービスを利用していたが、Ｋ高台に移転した後は、Ｋ高台内での自治会活動やイベントに参加することが増え、次第にＳサポート拠点を利用することはなくなっていった。図 10 はＪ,Ｋ高台の高齢者がこれまでにＳサポート拠点を利用した回数を示したものだが、Ｋ高台の高齢者は高台移転した最初の頃に数回利用した後は次第に利用しなくなったのに対し、Ｊ高台の高齢者は移転後も利用を継続し、後期高齢者の

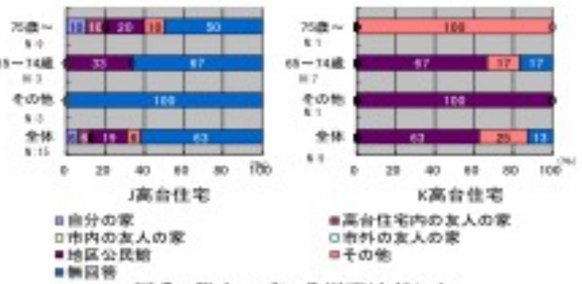

図 7　集まっている場所はどこか

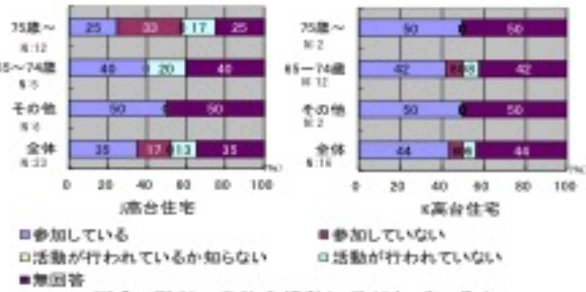

図 8　現在，自治会活動に参加しているか

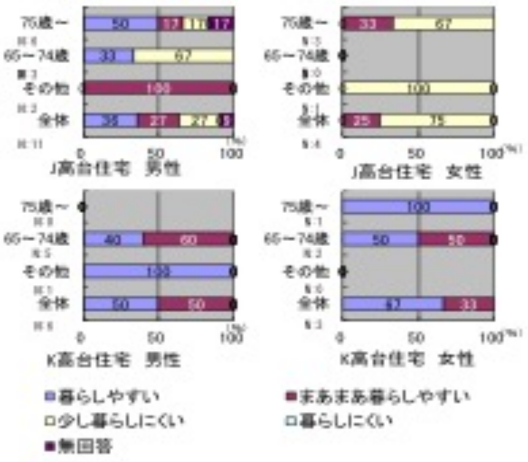

図 9　現在住んでいる高台は暮らしやすいか

表 2　どのような点で暮らしにくいと思うか

・友人が近くにいない
・仮設住宅時代の友人が同じ高台住宅にいない
・日常のちょっとした手伝い（電球交換や荷下しなど）を頼める人がいない
・緊急時に助けを呼べる人がいない

（順不同、複数回答あり）

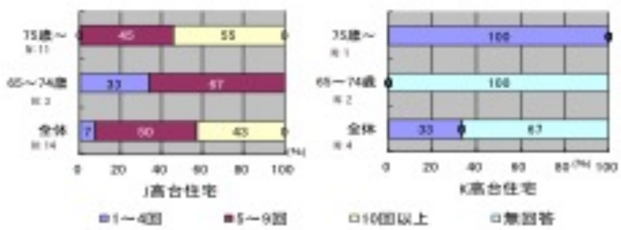

図 10　高齢者サポート拠点の利用回数

中には10回以上も継続的に利用している人々もいる。J高台の高齢者でSサポート拠点を利用している人々にサポート拠点が必要だと思う理由を尋ねたところ(表 3)、「おしゃべり相手が欲しい」、「相談相手が欲しい」、「（仮設住宅時代に利用した）高齢者サポート拠点のサービスがよかったから」という回答が聞かれた。このように、地域活動や交流関係が希薄なJ高台に住んでいる高齢者にとって、高齢者サポート拠点は高台移転後も重要な役割を果たしていることがわかる。

続いて、R仮設住宅のときに主に高齢者が利用していた支援員制度について、J,K高台の住民にその必要性を尋ねてみたところ、やはり全体にJ高台の高齢者において「必要だと思う」と答える人が多く見られた（図 11）。支援員制度はもともと仮設住宅のコミュニティ作りのお手伝いや、仮設住民の生活支援を目的に導入されたものであるが、孤立しがちな高齢者への声かけや、高齢者の日常生活のお手伝いを行うなど、仮設住宅の高齢者支援にかかせない役割を果たしている場合も多かった。仮設住宅の閉鎖後は支援員は「コミュニティサポーター」として、災害公営住宅を巡回してコミュニティづくりのお手伝いや生活支援を行うようになった。こうした支援を防災集団移転地においても提供して欲しいという要望が、J 高台の高齢者からは多く聞かれた。支援員に対して期待する役割をJ高台の高齢者に尋ねたところ、「相談に乗ってくれる」、「おしゃべり相手になってくれる」、「(自分たちのことを）気にかけてくれる」など、前述の高齢者サポート拠点が必要だと思う理由と同様な回答が得られた。また、「イベントの情報を知らせてくれる」、「行政の情報や、やり取りの仕方を教えてくれる」、「困っていることを行政に伝えてくれる」など情報提供や行政と住民とのパイプ役としての役割を期待している意見も聞かれた。以上の結果から、主に仮設住宅での支援の提供を目的としていた高齢者サポート拠点や支援員制度であるが、とりわけコミュニティが十分に機能しておらず、交流関係が希薄なJ高台のような防災集団移転地においては依然として高いニーズが存在していることが明らかとなった。

表 3　日常的な交流関係でどのような点が不満か

- 仲の良い友人宅と離れてしまう
- 集会所や公民館がなく友人と気軽に話せない
- 日常のちょっとした手伝いを頼める人がいない
- 困ったときに助けてくれる人がいない
- 緊急時に助けを呼べる人がいない
- 体調を崩したときに隣人に頼ることができない
- 住んだこともない土地に移り住むことになり孤独
- 自治会活動にうまく参加できない

（順不同、複数回答あり）

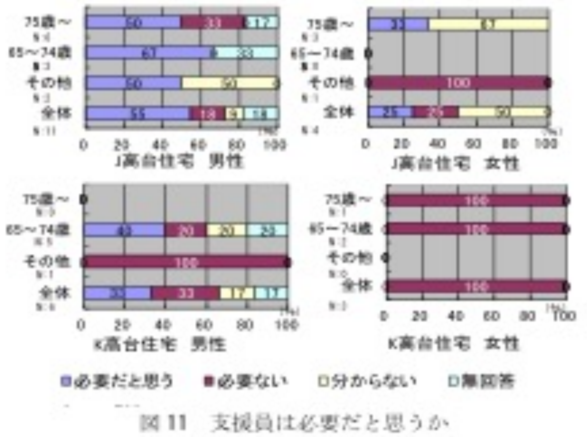

図 11　支援員は必要だと思うか

(3)．まとめ 本研究では、岩手県大船渡市の防災集団移転地を対象として、仮設住宅から防災集団移転地への移転プロセスがコミュニティの活動状況や高齢者の交流関係にどのような影響を与えたのか、また高齢者自身がそうした状況をどのようにとらえ、どのようなニーズや希望を有しているのかを明らかにすることを通じて、防災集団移転地における高齢者の孤立化を防止するためにどのような支援が求められるのかを検討してきた。その結果、以下の諸点が明らかになった。1）コミュニティの状況が異なる２つの防災集団移転地（J,K 高台）について検討したところ，被災前の集落から仮設住宅を経て防災集団移転地へと至る移転のプロセスが，その後の防災集団移転地におけるコミュニティの状況と密接な関連があることが明らかとなった。2）J,K高台の住民に行ったアンケート調査より、交流関係や友人の有無、交流の頻度のいずれにおいてもJ高台よりもK高台の方が高い割合を示しており、コミュニティ活動と同様に交流関係においてもやはりK高台の方が活発であることが明らかとなった。3）J,K高台の住民に行ったアンケート調査の結果より、J,K高台の住民のコミュニティ活動への参加状況を検討したところ、K 高台では「地区公民館」と「集会所」が住民の日常的に集まる場となっており、そこで自治会活動や地域行事を行っていた。一方、J 高台には公民館も集会所も設置されていないために、自治会活動も地域行事も行われていない 。4）集団移転先の高台での生活に対して、K 高台では高齢者も含めてすべての人が肯定的な評価を与えたのに対し、J 高台においては生活への満足度はかなり低く、高齢者から住民間の交流の場が少ないことや日常的に頼れる人がいないことなど交流関係に関する不安や不満が多く聞かれた。5）K高台の高齢者は高齢者サポート拠点や支援員制度の必要性をそれほど感じていないが、J 高台の高齢者にとっては高齢者サポート拠点と支援員制度は高台移転後も必要とされていることが明らかとなった。防災集団移転地においても、高齢者サポート拠点や支援員制度など仮設住宅時代の高齢者支援の社会的資源を有効に活用して、積極的な高齢者支援を行うことが必要になる。高齢者サポート拠点の立地場所や支援員のサービス範囲などを防災集団移転地の高齢者にも利用しやすいように対応させていくことも求められる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計31件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 中島美登子，小沢拓也，楠　鷹人，河村祐希，大林圭太朗，湯谷朗人,平野凌次，永江大右，柏原翔，坂本誠弥	４．巻 13
２．論文標題 大船渡市の防災集団移転地における高齢者の孤立化防止に関する研究	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会住宅系研究報告会論文集（社団法人日本建築学会）	６．最初と最後の頁 99-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中島美登子，湯谷朗人，藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	４．巻 18
２．論文標題 大船渡市の災害公営住宅における集会所とコミュニティ活動が 高齢者の交流関係におよぼす影響に関する研究	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	６．最初と最後の頁 77-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 湯谷朗人 ，中島美登子,藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也， 河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	４．巻 18
２．論文標題 大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが 高齢者の生活におよぼす影響に関する研究	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	６．最初と最後の頁 79-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 藤本将太 中島美登子,，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	４．巻 18
２．論文標題 コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その4 大船渡市の2つの高台住宅における 外出状況と交流関係の変化	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	６．最初と最後の頁 69-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田渕賢吾 中島美登子,，藤本将太，松井厚樹，千原拓也,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	4．巻 18
2．論文標題 コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その5 大船渡市の２つの高台住宅における 集まる場所に対する住民の意識	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	6．最初と最後の頁 71-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 千原拓也,，中島美登子,，藤本将太，松井厚樹,，田渕賢吾,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	4．巻 18
2．論文標題 コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その6 大船渡市の2つの高台住宅における 高齢者サポート拠点の状況	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	6．最初と最後の頁 73-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松井厚樹,，中島美登子,，藤本将太,千原拓也,，田渕賢吾,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	4．巻 18
2．論文標題 コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その7 3810:40～10:50 5.建築計画"コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究－その7""大船渡市の2つの高台住宅における 高齢者サポート拠点の役割	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	6．最初と最後の頁 75-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤本将太 中島美登子,，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	4．巻 E-1分冊
2．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者の交流関係 コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その1	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6．最初と最後の頁 131-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田渕賢吾 中島美登子,，藤本将太，松井厚樹，千原拓也,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における集会所に対する住民の意識 コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その2	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 132-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 千原拓也,，中島美登子,，藤本将太，松井厚樹,，田渕賢吾,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の状況 大船渡市の高台住宅におけるコミュニティの状態と福祉サポートが高齢者の交流関係に及ぼす影響 その1	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 134-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松井厚樹,，中島美登子,，藤本将太,千原拓也,，田渕賢吾,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の役割 大船渡市の高台住宅におけるコミュニティの状態と福祉サポートが高齢者の交流関係に及ぼす影響 その2	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 136-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平野凌次,，中島美登子,，藤本将太,千原拓也,，田渕賢吾,，松井厚樹,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の高台住宅における高齢者の外出状況および交流関係に関する研究	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 163-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 湯谷朗人 ，中島美登子,藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也， 河村祐希,大林圭太郎,平野凌次	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが 高齢者の生活におよぼす影響に関する研究	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 165-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 河村祐希,中島美登子,藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,湯谷朗人,大林圭太郎,平野凌次	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の災害公営住宅における集会所に対する住民の意識 災害公営住宅における集会所とコミュニティ活動が高齢者の交流関係におよぼす影響に関する研究 その1	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 167-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大林圭太郎,中島美登子,藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,湯谷朗人,河村祐希,平野凌次	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の災害公営住宅におけるコミュニティサポーターの役割　災害公営住宅における集会所とコミュニティ活動が高齢者の交流関係におよぼす影響に関する研究 その2	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 169-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 中島美登子,小沢拓也,楠　鷹人,奥平早紀子,平尾卓也,明神優貴	４．巻 12
２．論文標題 大船渡市の仮設住宅における高齢者サポート拠点の役割 －仮設住宅における高齢者の孤立化防止に関する研究　その4 －	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本建築学会住宅系研究報告会論文集	６．最初と最後の頁 265-274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大林圭太朗,中島美登子,河村祐希,湯谷朗人,平野凌次,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	４．巻 17
２．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者の外出状況と交流関係の変化-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究　その1-	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	６．最初と最後の頁 77-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 湯谷朗人,中島美登子,河村祐希,大林圭太朗,平野凌次,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	４．巻 17
２．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点に対する住民の意識-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究　その2-	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	６．最初と最後の頁 79-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 平野凌次,中島美登子,河村祐希,大林圭太朗,湯谷朗人,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	４．巻 17
２．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の役割- コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究　その3-	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	６．最初と最後の頁 81-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 河村祐希,中島美登子,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	４．巻 17
２．論文標題 大船渡市の５つの高台住宅における高齢者サポート拠点の役割- コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究　その4-	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	６．最初と最後の頁 83-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 永江大右,中島美登子,河村祐希,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	4．巻 17
2．論文標題 コミュニティの状態の違いによる災害公営住宅の集会所のコミュニティへの支援が高齢者の及ぼす影響に関する研究	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	6．最初と最後の頁 85－86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中島美登子,永江大右,河村祐希,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	4．巻 17
2．論文標題 大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活におよぼす影響に関する研究	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本建築学会四国支部研究報告集	6．最初と最後の頁 75-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大林圭太朗,中島美登子,河村祐希,湯谷朗人,平野凌次,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	4．巻 E-1分冊
2．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者の外出状況と交流関係の変化-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の 状態の変化に関する研究　その1	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6．最初と最後の頁 171－172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 湯谷朗人,中島美登子,河村祐希,大林圭太朗,平野凌次,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	4．巻 E-1分冊
2．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点に対する住民の意識-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の 状態の変化に関する研究　その2	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6．最初と最後の頁 173－174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平野凌次,中島美登子,河村祐希,大林圭太朗,湯谷朗人,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥	4．巻 E-1分冊
2．論文標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の役割-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の 状態の変化に関する研究　その3	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6．最初と最後の頁 175－176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小沢拓也,中島美登子,永江大右,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,河村祐希,柏原 翔,坂本誠弥,楠　鷹人	4．巻 E-1分冊
2．論文標題 大船渡市の災害公営住宅における高齢者の外出状況と交流関係の変化-コミュニティの状態と支援の違いによる災害公営住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その 1-	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6．最初と最後の頁 183－184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 永江大右,中島美登子,小沢拓也,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,河村祐希,柏原 翔,坂本誠弥,楠　鷹人	4．巻 E-1分冊
2．論文標題 大船渡市の災害公営住宅における高齢者のサポート拠点の役割-コミュニティの状態と支援の違いによる災害公営住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その 2-	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6．最初と最後の頁 185－186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柏原 翔,中島美登子河村祐希,湯谷朗人,平野凌次,大林圭太朗,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,坂本誠弥	4．巻 E-1分冊
2．論文標題 大船渡市の5 つの高台住宅における交流関係に関する高齢者の意識-大船渡市における防災集団移転の進め方が高齢者の外出状況および交流関係におよぼす影響に関する研究 その 1-	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	6．最初と最後の頁 187－188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 河村祐希,中島美登子,柏原 翔,湯谷朗人,平野凌次,大林圭太朗,永江大右,小沢拓也,	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の5 つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の役割-大船渡市における防災集団移転の進め方が高齢者の外出状況および交流関係におよぼす影響に関する研究 その 2-	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 189－190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 楠　鷹人,中島美登子,坂本誠弥,湯谷朗人,平野凌次,大林圭太朗,柏原 翔,河村祐希,小沢拓也,永江大右	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の仮設住宅における交流関係に関する高齢者の意識--大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活におよぼす影響に関する研究 その1-	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 199-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 坂本誠弥,中島美登子,楠　鷹人,湯谷朗人,平野凌次,大林圭太朗,柏原 翔,河村祐希,小沢拓也,永江大右	４．巻 E-1分冊
２．論文標題 大船渡市の仮設住宅における高齢者の交流関係の変化--大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活におよぼす影響に関する研究 その2-	５．発行年 2017年
３．雑誌名 日本建築学会建築計画系梗概集	６．最初と最後の頁 200-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計33件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 中島美登子，小沢拓也，楠　鷹人，河村祐希，大林圭太朗，湯谷朗人,平野凌次，永江大右，柏原翔，坂本誠弥
２．発表標題 大船渡市の防災集団移転地における高齢者の孤立化防止に関する研究
３．学会等名 第13回日本建築学会住宅系研究報告会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Mitoko Nakashima
２．発表標題 Study on the prevention of social isolation of the elderly in the collective relocation site for disaster prevention of Ofunato City, Japan
３．学会等名 The Environmental Design Research Association The 49th Annual Meeting at Oklahoma City, OK. June , 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 中島美登子，湯谷朗人，藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,河村祐希,大林圭太郎,平野凌次
２．発表標題 大船渡市の災害公営住宅における集会所とコミュニティ活動が 高齢者の交流関係におよぼす影響に関する研究
３．学会等名 日本建築学会四国支部研究報告会
４．発表年 2018年

１．発表者名 湯谷朗人 ，中島美登子,藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,河村祐希,大林圭太郎,平野凌次
２．発表標題 大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが 高齢者の生活におよぼす影響に関する研究
３．学会等名 日本建築学会四国支部研究報告会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤本将太 中島美登子,，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次
２．発表標題 コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その4 大船渡市の2つの高台住宅における 外出状況と交流関係の変化
３．学会等名 日本建築学会四国支部研究報告会
４．発表年 2018年

１．発表者名
田渕賢吾 中島美登子,，藤本将太，松井厚樹，千原拓也,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その5 大船渡市の２つの高台住宅における 集まる場所に対する住民の意識

３．学会等名
日本建築学会四国支部研究報告会

４．発表年
2018年

１．発表者名
千原拓也,，中島美登子,，藤本将太，松井厚樹,，田渕賢吾,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その6 大船渡市の2つの高台住宅における 高齢者サポート拠点の状況

３．学会等名
日本建築学会四国支部研究報告会

４．発表年
2018年

１．発表者名
松井厚樹,，中島美登子,，藤本将太,千原拓也,，田渕賢吾,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その7 3810:40～10:50　5.建築計画"コミュニティの状態と支援の違いによる 高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究－その7""大船渡市の2つの高台住宅における 高齢者サポート拠点の役割

３．学会等名
日本建築学会四国支部研究報告会

４．発表年
2018年

１．発表者名
藤本将太 中島美登子,，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
大船渡市の２つの高台住宅における高齢者の交流関係 コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その1

３．学会等名
日本建築学会学術講演会

４．発表年
2018年

１．発表者名
田渕賢吾 中島美登子,，藤本将太，松井厚樹，千原拓也,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
大船渡市の２つの高台住宅における集会所に対する住民の意識 コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その2

３．学会等名
日本建築学会学術講演会

４．発表年
2018年

１．発表者名
千原拓也,，中島美登子,，藤本将太，松井厚樹,，田渕賢吾,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の状況 大船渡市の高台住宅におけるコミュニティの状態と福祉サポートが高齢者の交流関係に及ぼす影響 その1

３．学会等名
日本建築学会学術講演会

４．発表年
2018年

１．発表者名
松井厚樹,，中島美登子,，藤本将太,千原拓也,，田渕賢吾,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の役割 大船渡市の高台住宅におけるコミュニティの状態と福祉サポートが高齢者の交流関係に及ぼす影響 その2

３．学会等名
日本建築学会学術講演会

４．発表年
2018年

１．発表者名
平野凌次,，中島美登子,，藤本将太,千原拓也,，田渕賢吾,，松井厚樹,，湯谷朗人，河村祐希,大林圭太郎,

２．発表標題
大船渡市の高台住宅における高齢者の外出状況および交流関係に関する研究

３．学会等名
日本建築学会学術講演会

４．発表年
2018年

１．発表者名
湯谷朗人 ，中島美登子,藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也， 河村祐希,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが 高齢者の生活におよぼす影響に関する研究

３．学会等名
日本建築学会学術講演会

４．発表年
2018年

１．発表者名
河村祐希,中島美登子,藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,湯谷朗人,大林圭太郎,平野凌次

２．発表標題
大船渡市の災害公営住宅における集会所に対する住民の意識 災害公営住宅における集会所とコミュニティ活動が高齢者の交流関係におよぼす影響に関する研究 その1

３．学会等名
日本建築学会学術講演会

４．発表年
2018年

１．発表者名
大林圭太郎,中島美登子,藤本将太，田渕賢吾，松井厚樹，千原拓也,湯谷朗人,河村祐希,平野凌次

２．発表標題
大船渡市の災害公営住宅におけるコミュニティサポーターの役割　災害公営住宅における集会所とコミュニティ活動が高齢者の交流関係におよぼす影響に関する研究 その2

３．学会等名
日本建築学会学術講演会

４．発表年
2018年

１．発表者名
中島美登子,小沢拓也,楠　鷹人,奥平早紀子,平尾卓也,明神優貴

２．発表標題
大船渡市の仮設住宅における高齢者サポート拠点の役割 －仮設住宅における高齢者の孤立化防止に関する研究　その4 －

３．学会等名
第12回日本建築学会住宅系研究報告会

４．発表年
2017年

１．発表者名
大林圭太朗,中島美登子,河村祐希,湯谷朗人,平野凌次,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥

２．発表標題
大船渡市の２つの高台住宅における高齢者の外出状況と交流関係の変化- コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究　その1-

３．学会等名
日本建築学会四国支部研究発表会

４．発表年
2017年

１．発表者名
湯谷朗人,中島美登子,河村祐希,大林圭太朗,平野凌次,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥

２．発表標題
大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点に対する住民の意識- コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究　その2-

３．学会等名
日本建築学会四国支部研究発表会

４．発表年
2017年

１．発表者名
平野凌次,中島美登子,河村祐希,大林圭太朗,湯谷朗人,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥

２．発表標題
大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の役割-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の 状態の変化に関する研究　その3

３．学会等名
日本建築学会四国支部研究発表会

４．発表年
2017年

１．発表者名
河村祐希,中島美登子,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥

２．発表標題
大船渡市の５つの高台住宅における高齢者サポート拠点の役割- コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究　その4-

３．学会等名
日本建築学会四国支部研究発表会

４．発表年
2017年

1．発表者名 永江大右,中島美登子,河村祐希,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥
2．発表標題 コミュニティの状態の違いによる災害公営住宅の集会所のコミュニティへの支援が高齢者の及ぼす影響に関する研究
3．学会等名 日本建築学会四国支部研究発表会
4．発表年 2017年

1．発表者名 中島美登子,永江大右,河村祐希,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥
2．発表標題 大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活におよぼす影響に関する研究
3．学会等名 日本建築学会四国支部研究発表会
4．発表年 2017年

1．発表者名 大林圭太朗,中島美登子,河村祐希,湯谷朗人,平野凌次,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥
2．発表標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者の外出状況と交流関係の変化-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究　その1
3．学会等名 日本建築学会学術講演会
4．発表年 2017年

1．発表者名 湯谷朗人,中島美登子,河村祐希,大林圭太朗,平野凌次,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥
2．発表標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点に対する住民の意識-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の 状態の変化に関する研究　その2
3．学会等名 日本建築学会学術講演会
4．発表年 2017年

１．発表者名 平野凌次,中島美登子,河村祐希,大林圭太朗,湯谷朗人,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,柏原 翔,坂本誠弥
２．発表標題 大船渡市の２つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の役割-コミュニティの状態と支援の違いによる高台住宅に住む高齢者の 状態の変化に関する研究　その3
３．学会等名 日本建築学会学術講演会
４．発表年 2017年

１．発表者名 小沢拓也,中島美登子,永江大右,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,河村祐希,柏原 翔,坂本誠弥,楠　鷹人
２．発表標題 大船渡市の災害公営住宅における高齢者の外出状況と交流関係の変化-コミュニティの状態と支援の違いによる災害公営住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その 1-
３．学会等名 日本建築学会学術講演会
４．発表年 2017年

１．発表者名 永江大右,中島美登子,小沢拓也,平野凌次,大林圭太朗,湯谷朗人,河村祐希,柏原 翔,坂本誠弥,楠　鷹人
２．発表標題 大船渡市の災害公営住宅における高齢者のサポート拠点の役割-コミュニティの状態と支援の違いによる災害公営住宅に住む高齢者の状態の変化に関する研究 その 2-
３．学会等名 日本建築学会学術講演会
４．発表年 2017年

１．発表者名 柏原 翔,中島美登子河村祐希,湯谷朗人,平野凌次,大林圭太朗,永江大右,小沢拓也,楠　鷹人,坂本誠弥
２．発表標題 大船渡市の5 つの高台住宅における交流関係に関する高齢者の意識-大船渡市における防災集団移転の進め方が高齢者の外出状況および交流関係におよぼす影響に関する研究 その 1-
３．学会等名 日本建築学会学術講演会
４．発表年 2017年

１．発表者名 河村祐希,中島美登子,柏原 翔,湯谷朗人,平野凌次,大林圭太朗,永江大右,小沢拓也,
２．発表標題 大船渡市の5 つの高台住宅における高齢者のサポート拠点の役割-大船渡市における防災集団移転の進め方が高齢者の外出状況および交流関係におよぼす影響に関する研究 その 2-
３．学会等名 日本建築学会学術講演会
４．発表年 2017年

１．発表者名 楠　鷹人,中島美登子,坂本誠弥,湯谷朗人,平野凌次,大林圭太朗,柏原 翔,河村祐希,小沢拓也,永江大右
２．発表標題 大船渡市の仮設住宅における交流関係に関する高齢者の意識--大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活におよぼす影響に関する研究 その1-
３．学会等名 日本建築学会学術講演会
４．発表年 2017年

１．発表者名 坂本誠弥,中島美登子,楠　鷹人,湯谷朗人,平野凌次,大林圭太朗,柏原 翔,河村祐希,小沢拓也,永江大右
２．発表標題 大船渡市の仮設住宅における高齢者の交流関係の変化--大船渡市の仮設住宅におけるコミュニティの状態と支援の違いが高齢者の生活におよぼす影響に関する研究 その2-
３．学会等名 日本建築学会学術講演会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Mitoko NAKASHIMA
２．発表標題 Study on the prevention of social isolation of the elderly in the collective relocation site for disaster prevention of Ofunato City, Japan
３．学会等名 The Environmental Design Research Association The 48th Annual Meeting at Madison, WI.May 31June 3, 2017（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考